

## 笑って泣いて成長中!

こども園生活発表会が12月11日に開催されました。

感染症対策を徹底した発表会となりましたが、園児たちは劇やダンス、歌などを披露し一回り大きく成長した姿を見せてくれました。

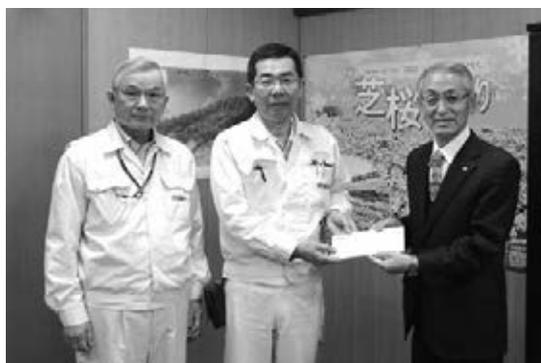


## マーレ平田工場から

### 寄附金の贈呈

マーレエンジンコンポーネンツジャパン(株)平田工場の佐藤芳之工場長と古川次男さんが12月26日、役場を訪れ社会福祉協議会へ寄附金を手渡しました。

この寄附金は、工場の安全衛生委員会が年間行事の一つとして行っている入札形式バザーの収益金や、従業員からの募金を集めて寄附いただいたものです。同日、NPO法人がんばろう会だんでらいおんにも訪れ、寄附金を手渡しました。



## 第14回石川コンバレンタイン直前!

### 素敵な出会いを!

石川地方5町村が連携して行う婚活イベントが1月29日、八幡屋で開催され、男性49人、女性14人が参加しました。

当日は、パチッコリンがサポーターを務め会場を盛り上げました。

参加者は和やかな雰囲気の中、パーティータイムを通して交流を深め、イベントの最後には、参加者からカップリングカードが提出され、10組のカップルが誕生しました。

今後とも定期的な開催を予定しています。興味を持たれた方はぜひご参加ください。





## 【中学校の部】

## 多様性について

ひらた清風中学校3年 吉田 隼さん



私は「セカイを科学せよ」という本を読んだ。この本は図書館で見かけ、タイトルにひかれ、司書の先生にも勧められ手に取ってみた。

ロシア人の母をもつ藤堂ミ、ハイルは、小学生の頃の失敗から「こじらせ系ハーフ」となり、なるべく目立たないよう科学部で地味に生きている。そこへ父親がアメリカ系の山口アビゲイル葉菜が転入してくる。彼女は蟲好きで、科学部に入学してカナヘビ、ワラジムシ、ハエトリグモ、ミジンコを飼育する。初めは反対していた科学部電脳班のメンバーも徐々に生物に興味をもち、生物班存続をかけて一緒にミジンコの観察を取り組む中で、自分は何者かと深く考える物語だ。

転入してきた葉菜は、クラスメイトからの先入観を「叩き壊す」かのように「自分は英語力も運動神経もなく、走るのも遅い」と自己紹介した。私はミックスルーツをもつ人に対して、「足が速そう」「背が高そう」などというイメージを勝手にもっていた。しかしみんながみんなそのような人ではないことに気付いた。イメージだけで勝手な想像をしてはいけない。勝手な想像は時に人を傷つけ、差別、偏見につながると思ったからだ。私は葉菜があのような自己紹介をしたのは、勝手に思い込まないで、と言いたかったのだと思う。

私は部活動の県大会で、日本とウクライナのミック

スルーツをもつ同級生と仲良くなり、話した。私は、彼に「ロシア語は話せるの」と質問した。彼は日本語しか話せないということが分かった。私は「ハーフだからロシア語が話せるのではないか」と思い込んでいたことに後悔した。そのとき私はこれからはこの経験を生かして、思い込みや決めつけを無くしていこうと思った。

この本を読んで、印象的だったシーンがいくつかある。ミハイルが抱えていた悩みを同級生に打ち明けようとすが、

「そんな小さな悩みは気にするな。」

と言われてしまう場面がある。そのときに葉菜は、

「どのくらい大きな悩みだったら、悩みつて認めてもらえるんですかね。」

「小さいつて認定されたら、もうなかったことになるのかな。」

と言った。その話にとっても納得した。みんな小さな悩みを抱えているだろう。私も小さな悩みを抱えていたときがあった。しかし私はその悩みを誰にも打ち明けることができなかつた。今思えばそれは自分のもっていた悩みを勝手に小さいものだと思つて、なかつたことにしていたからだと思う。小さな悩みを打ち明けられずためていくと、いつか爆発してしまう。だから、自分で小さな悩みだからと決めつけずに人に相談しよう。そういうことを葉菜から教わつた気がする。

私がこの本を読んでいく中で、葉菜が一番いきいきとしていると感じた。それは、自分の好きなことに正直に打ち込む姿があつたからだろう。葉菜は蟲に夢中であつたが、それに批判的だつたり、冷たい視線を浴びせる人もいた。しかしそのようなことをされても葉菜は好きなことをやめなかつた。「周りに合わせる

ことはない」「好きなことを好きと言え」という意志に、私はとても感動した。

世界には、様々な人種、民族が暮らしていて、世界人口は約七十八億人にもなる。その一人一人が性格や容姿が異なり、自分と同じ人などいないのだ。ここで私は思った。「もしも世界にいる全ての人間が自分と同じタイプだったら」と。当然、世界は回らなくなる。世の中にある仕事のほとんどは私がやりたくない仕事であり、私にはできない仕事だと気付き、いろいろなタイプの人間がいてくれなければ世の中は全く回らなくなることを発見することができた。

私は以前「JICA国際交流」でこんな話を聞いた。

「アフリカの子供たちにはいじめがない。もしも一人が服を着ていなかったら、その子のためにお金を集めて、買ってあげるんだ。」

私は衝撃を受けた。このような素晴らしい話が日本にあるだろうか。他と違うだけでいじめを行う私達は、何てバカなんだろうと思つた。

この本を読むまでは、他人と自分を比較して、人と異なることがあるとその人に合わせたり、気にしてしまふような私だったが、本書がきっかけとなり「他人と違うことが私の存在価値なのだ」と気づくことができた。

他の人と違うことを誇りに思っている葉菜のように私も強く生きたいと思つた。

私はいつも自分が読みたい本を図書館から借りることがほとんどであつた。しかし、今回図書館の司書の先生にアドバイスを頂き、いつもと違う本を借り、いろんなことに思いを巡らすことができた。こんな読書の楽しみもいものだと深く考えることができた。